【資料紹介】

翻刻　渡部寛一郎日記5・I（大正六年十二月～七年六月）

渡部寛一郎文書研究会
（要木純一・竹永三男・板垣貴志・内田融・大原俊二・居石由樹子・小林啓治・小林奈緒子・杉谷直哉・原洋二・本井優太郎・森安章）

摘　要

渡部寛一郎文書は、渡部寛一郎日記、剪淞吟社に結集する人々の漢詩と関連文書、若槻礼次郎ほかの渡部寛一郎宛書簡、私立中学校修道館など渡部寛一郎が関わった教育関係文書などで構成されている。中国文学・歴史学などの学際的研究によってこれらの諸文書を解読・分析し、近代日本の漢詩文学と政治文化の関連を山陰地域に即して実証的に追究することが本プロジェクトのめざすところである。今回は、渡部寛一郎日記第五冊のうち、大正六年十二月から七年六月の部分を翻刻する。寛一郎が教育界から身を引いた時期のものである。漢詩、謡曲、旅行、家族・親族・友人との交流、歓談に日々を費やしているようであるが、地方政治、教育、経済に対する関心も垣間見られ、その交友関係は、この後の、若槻礼次郎の後援会長としての、県会議員としての活躍につながるものがある。

キーワード：渡部寛一郎　山陰　政治　教育　漢詩　謡　大正

【解説】

今回翻刻する渡部寛一郎日記第五冊「大正六年十二月起　日誌」に記された一九一七年（大正六）十二月から一九一八年（同七）六月の期間は、第一次世界大戦末期、一九一七年のロシア革命の後、一九一八年八月のロシア革命干渉戦争＝シベリア出兵宣言と米騒動の直前にあたる内外激動の時期である。そのような国内外の情勢を直接書き留めた記事は、日記には見られないが、渡部寛一郎は来訪者と「時事談」を交わしている記事が見られる（一九一八年一月十二日）。また、渡

部家の出来事では、孫・矢田春子の結婚という慶事があり、年末・年始に家族が集うなど喜びにあふれた記事が散見される。

このような日記の記述から、いくつか山陰地域の文化・歴史に関する記事を拾い上げると次のとおりである。

一　剪淞吟社の活動と山陰大詩会の開催

第一に、一九一八年（大正七）五月五日、快晴のこの日、松江市の松崎水亭で第十一回山陰大詩会が開かれた。その様子は『剪淞詩文』第六編（一九一八年七月五日発行）に記されている。

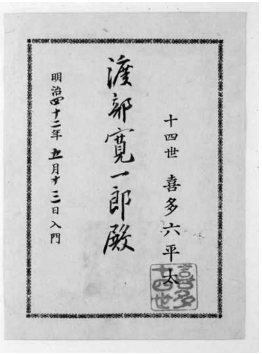
今回の大詩会の責任者は横山耐雪、参加者は二五人で、原唱者は松軒藤脇善政、和韻は三十六首であった（大原俊二「鳥取県下の漢詩結社」入谷仙介・大原俊二共著『山陰の近代漢詩』同刊行会、二〇〇四年、三〇三頁）。「日記」には、打ち合わせのため活処田代習を訪ね、「井上氏（井上井蛙）ト打合ヲ為シ」たこと、当日の展覧用に「堀尾氏矢富翁遺墨一幅持参」したこと（五月二日）が記されている。大詩会付属の催しとして、山陰の古今の詩人たちの墨蹟の展覧会が行われたのである。

また、一九一七年一二月九日、一九一八年二月二十四日、三月二十三日、五月二十五日に開かれた剪淞吟社例会に参加したことも書き留められている。

二　謡の練習

教育家であり、漢詩人であった渡部寛一郎の趣味の一つが「謡」であった。渡部寛一郎は一九〇九年（明治四二）五月十三日に喜多流に入門していたが（【図1】）、翌一九一〇年（明治四三）六月には「二十九番」、一九一七年（大正六）四月には「景清」「翁」の免状（「相傳」）を授けられていた（【図2】【図3】）。今回翻刻した「渡部寛一郎日記」には「謡」に関する記事が三一件記録されている。その内容は「定日」の稽古（十二月一日ほか）、廣田水亭で開かれた新年謡曲会出席（一月十三日）、謡曲会の組織に関して富山宅で協議したこと（三月二十一日）、謡曲稽古場設置の件について同好者との協議がまとまったこと（四月九日）などである。

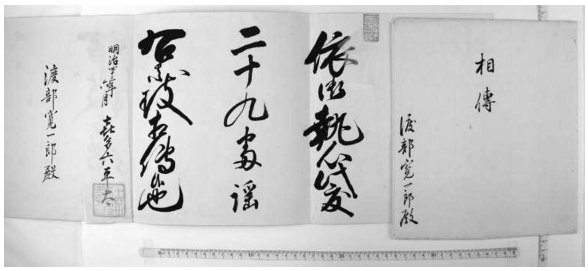
〔注〕幕末の松江藩で観世流から喜多流に改流されたことについては、小林准士『松江城下の町人と能楽』（山陰研究ブックレット3、二〇一四年）61～63頁参照。

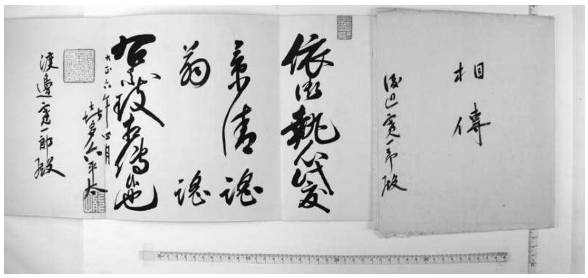


【図1】喜多流入門証（「渡部寛一郎文書」6-1-2）

上【図2】喜多流「相傳」明治四十二年六月
（「渡部寛一郎文書」6-1-1）

下【図3】喜多流「相傳」大正六年四月
（「渡部寛一郎文書」6-1-3）





三　次男啓次郎の朝鮮在留と日本の朝鮮支配強化

渡部寛一郎の次男啓次郎は、植民地朝鮮に渡り京城に在留していた。今回翻刻した「渡部寛一郎日記」では、啓次郎の知人である在朝鮮歩兵七八聯隊陸軍歩兵中尉の武多弘氏が結婚のため帰国した序でに渡部寛一郎を訪ね、啓次郎から託された子供の写真とウィスキーを持参したり（五月二十日）、かつて渡部家に下女として仕えた女性常子を啓次郎家の下女として斡旋し送り出していた記事が見える（六月一日、四日）。

渡部啓次郎が朝鮮に渡った事情は「渡部寛一郎日記」では明らかでないが、日露戦争後に急速に進んだ日本の朝鮮支配の強化とそれに伴う日本人の朝鮮渡航の増大の一齣であった。即ち、日露戦争下の一九〇四年八月の第一次日韓協約を機に韓国支配の強化を始めた日本は、日露戦争後の一九〇五年十一月の第二次日韓協約によって韓国の外交権を奪い、統監府を設置した。その後一九〇七年の「ハーグ密使事件」を機に皇帝を退位させた日本は、同年七月に締結した第三次日韓協約によって内政の支配権を強化した。これらの上に立って、一九一〇年八月、「韓国併合に関する条約」によって大韓帝国を廃し、日本に併合して植民地とした。このような朝鮮支配の拡大の中で、韓国・朝鮮に渡って在留する日本人の数も増加の一途をたどったことは、次の【表1】が示すとおりである。

【表1】韓国（大韓帝国）・朝鮮在留日本人数の推移

年次	戸数（戸）	人口（人）
1908年	37,121	126,168
1909年	43,405	146,147
1910年	50,992	171,543
1911年	62,633	210,689
1912年	70,688	243,720
1913年	77,120	271,591
1914年	83,400	291,317
1915年	86,200	303,669
1916年	90,360	320,938
1917年	93,167	333,416
1918年	93,426	335,872
1919年	97,344	345,620
1920年	94,514	347,850

出典：『朝鮮総督府統計年報』朝鮮総督府、1911年～1921年により作成。（国立公文書館アジア歴史資料センターデジタルアーカイブズ）
注：画像が不鮮明なため、一部に数値が不確かなところがある。

四　年末・年始の行事

一九一七年（大正六）から一九一八年（大正七）にまたがる今回の「渡部寛一郎日記」には、渡部家の年末・年始の行事が記されている（【表2】）。この表から、雑賀町に居を構え、賣豆記神社の氏子である渡部寛一郎一家の賑やかで多忙な年越、迎年の行事の数々が見て取れる。

（竹永三男）

【表2】渡部寛一郎家の年末・年始の行事等

12月5日	例年通り煤払に着手
6日	終日障子張替等
11日	庭園清掃と樹木の移植
25日	歳末の用事で外出
26日	例年通り餅搗き
27日	終日年賀状を認める
29日	迎年準備
31日	（長男）謙一郎帰省／除夜の式、蕎麦を喫す
1月1日	氏神賣豆記参拝／屠蘇を酌んで迎年の式を挙げ御汁煮を喫す／雑賀小学校新年式に列席／母衣小学講堂で開かれた官民年始会に出席
1月2日	在宿、賀客を応接
1月3日	懇意家を回礼する
1月4日	謙一郎の主催で家内中東京庵で蕎麦を喫す
1月13日	新年謡曲会（於廣田水亭）に出席。松江謡曲新年会に出席
1月14日	年賀状追加発送

出典：「大正六年十二月起　日誌」（「渡部寛一郎文書」）により作成

〔凡例〕

一、本号では、「渡部寛一郎関係文書」（松江市新雑賀町・原洋二氏所蔵）から、渡部寛一郎日記第五冊の一部を翻刻する。第五冊には、大正六年十二月一日から、大正九年一月一日までの記事（途中省略有り）の記事が収められている。今回はその約四分の一に当たる大正六年十二月一日から、翌七年六月三十日までの記事を翻刻した。

一、原本は、薄茶色厚紙表表紙、裏表紙、原稿用紙（「修道館」の三字が中心下に刻されている）を綴じ合わせた冊子である。原稿用紙は、縦罫（朱線、上下余白にメモ記入あり）十二行、表裏計二十四行を真ん中で半分に折っている。縦約二五センチ、横約一七・五センチ。

一、読みやすいよう句読点を附した。句読点の付け方には統一的な基準はない。原文にも句読点が付けられているが、必ずしも本稿のものとは一致しない。

一、合体字はカタカナ書きとした。

一、漢字は原則として常用漢字体を用いた。

一、不明文字・判読不能文字は、字数に従い、□□とする。字数が不明な場合は、〔　〕を用いた。

一、本文は、削除や後補が錯綜しているが、後補したものを含めて翻字し、削除や訂正は、必要と判断したもののみ、削除記号を付して、訂正前を示したり、注記をしたりした。

一、適宜【　】を付して注記を補った。

一、原文の改行は、特に必要と認めた場合以外は追い込みとした。逆に読みやすいように、改行した部分もある。

一、本文の文字サイズは同一とした。小字注は（　）を加えて示した。内容を捕捉することに重点を置き、縦書き・横書き・見せ消ち・文字の大小・改行・字下げ、空白など、必ずしも原文の体裁の通りではない。

［翻刻］

松江市新雑賀町 原洋二氏所蔵「渡部寛一郎文書」第二函

【表紙】「大正六年十二月起　日記」

【表紙裏右端上鉛筆書きメモ】

四月十七日　□朝十五度

三、一〇〇　ト　〇、三五〇、　計四三、四五〇、

【本文　「修道館」罫紙】

十二月

一日　快晴霜深シ　午后曇后微雨

此日、朝来何トナク気分爽快ナリシ。午前外出、芳子ヲ郵便局ニ訪フテ、勧業債券購入ノ手続ヲ了シ、夫ヨリ京店一二商店及市役所電灯会社ヲ歴訪、用ヲ弁シテ帰宅。午后、謡曲稽古定日ニテ足立氏来訪。佐藤氏欠席。冨山氏ト東北一曲ヲ復習シタリ。黄昏頃、前後シテ井川忠雄氏蔵光芳子氏二人ノ訪問ヲ受ケタルハ、近頃稀有ノ事ナリ。井川氏ハ友人武氏ノ長男、目下財務官トシテ北京在勤ノ人、徴兵試検ノ為帰国セシ序ナリト云。蔵光氏ハ目下米国留学中ノ医学士長次郎氏ノ夫人ニシテ、良人ノ伝言ヲ齎ラシテ挨拶ニ来レリ。

（備考）購入セシ債権ハ十円弐枚ニシテ其番号如左

第六十七回弐ノ組　五六〇九番　　五六壱〇番

二日　朝晴　后半陰

此日、晴ニ乗シテ、庭園溝掃ヲ為シタリ。ま起事去月六日発、神戸謙一郎方へ出浮セシカ、午后十時着汽車ニテ、孫女寛子同伴、帰松セリ。家庭一段ノ活気ヲ添ヘタリ。

三日　朝来雨

四日　半陰半晴　風寒シ時々微霰

此日、朝餐前、久々ニテ、ま起ト楼上ニテ神戸滞留中ノ状況并児孫等ノ将来ニ関スル思案話ニ時ヲ移セリ。子ヲ思フ親心、東西隔居ノ児孫等、此真情ヲ洞察スルヤ否。

五日　穏晴

此日、好日和ニ乗シ、俄思立ニテ、例年通煤払ニ着手シタリ。勘蔵、今次郎、お時三人ヲ雇入レ、各、心地好ク活働シテ、黄昏掃除終リ、例ニ依リ、十銭ツヽ三人ヘ祝儀ヲ恵与シタリ。

六日　陰　時々微雨

此日障子張替等ニテ終日ヲ過消シタリ。

七日　天候前日ニ同シ、記事ナシ。

八日　寒風寒雨　午后晴　風雨寒シ

此日、隣家先代球三郎氏命日ニ付、例年通果実ヲ供ヘ訪問焼香シタリ。明九日、剪淞吟社例会ヲ、我餐秀楼上ニテ開催スルコトニ約束セシニ付、楼上楼下ノ洒掃其他準備ニ消光セリ。

九日　快晴

予定通、午后ヨリ、吟社例会ヲ楼上ニテ開催セリ。来リ会スル者、横山耐雪、井上井蛙、田代活處、中嶋秋圃、谷口為次号黙渓、藤脇松軒ノ六人トス。松軒氏ハ用務ノ為半途辞去セリ。席上合作其他詩話雅談ニ時ヲ移シ、午后三時頃ヨリ午前二時過ニ至リ、各退散シタリ。横山氏ハ一泊。翌下リ第一番汽車ニテ帰邨セリ、此日ま起并芳子春子等周旋宜ヲ得、万事好都合ニ終了シ、近来ノ快適ナリキ。蓋此等雅会ヲ楼上ニテ開催セシハ、四拾有余年前ニシテ、爾来塵事ノ変遷ト家政ノ消長ニヨリ、断念シテ今日ニ至レルモ、諸氏ノ希望ニ任セ、会場ヲ承諾ナルシ得ルニ至リシ家政ノ現況ニ対シ、欣喜ノ余十種却テ今昔ノ情感ニ堪ヘサル者アリシ、依テ会終テ竊ニ先君ノ霊位ニ焼香シテ報奉告シ

タリ。

十日　半陰半晴　風寒

横山氏朝餐后、直ニ帰邨ノ途ニ就ケリ、

十一日　穏晴

日雇今次郎ヲ役シテ、庭園掃除并一二樹木ノ移植ヲ為サシメタリ。此日、洞光寺住職ヲ訪問シ、来十三日、原勝三郎十三回忌法要ノ事ヲ打合セタリ。

十二日　終日曇　無風

此日、旧下女お國、原法事ノ為態々出浮来宿セリ。

十三日　穏晴

此日、予定通、女婿勝三郎十三回忌法会ヲ営ミタリ。坐布【座敷の当て字か】ニ位牌ヲ安置セシメテ、祭壇ヲ設ケ、洞光寺住職杠大仙和尚ヲ導師トシ、外二僧ト三人、読経供養セシメタリ。重ナル来賓ハ加茂ノ実父渡部善七郎氏ト実弟田部信氏外、青柳、永野両未亡人トス。又下部ニテハ手伝兼帯ニテ特ニ原家ニ縁故深キ者ノミヲ招キタリ。男ニテハ原甚次郎（旧名岩）津田村村ノ長之助、女ニテハ米原お國ト旧下女お園トス。読経后午餐ヲ供シ、二時過無事終了シタリ。此日、芳子ノ配慮容易ナラス、特ニ同情ニ堪ヘサリシキ。田部信氏ハ四時過、下汽車ニテ帰村。加茂渡部父上ハ一泊、青柳、永野両人ハ黄昏辞去サレタリ。

十四日　穏晴

此日、荘原村ニ墓参ノ為、芳子ノ案内ニテま起并寛子お国妙子同伴出浮、先、学頭原氏訪問。同家ニテ暫ク休憩後、菩提所永徳寺参詣。了テ勝三郎墓ニ参拝シ、夫ヨリ湯ノ川温泉場ニ至リ午餐ヲ共ニシ、且入浴等ヲ為シ、了テ更ニ永徳寺ニ参詣、追悼法会ニ列席。原氏方ニテ晩餐ノ饗応ニ預リ、六時過発上汽車ニテ帰松シタリ。此日、湯ノ川温泉場ニテ午餐ヲ共セシハ、我々一行ト学頭老母ト勝三郎氏姉ニ当ル持田氏ノ令閨ト大人ハ計六人ナリキ。

十五日　風雪　寒甚シ

終日在宿。風邪気味ニテ在蓐静養シタリ。

十六日　天候前日ニ同シ

午前外出。藤脇善政氏ヲ其宅ニ訪問。帰テ蟄居。

十七日　天候同上

終日在宿。旧下女お國本日迄滞留。午后四時過発上汽車ニテ帰邨ノ途ニ就キタリ。

十八日　天候同上

午後外出。寺和多見町門脇友川宅ヲ訪ヒ、夫ヨリ茶町田代活処ヲ訪問。暫時談話ノ後、帰途四方文吉氏ヲ訪問シテ、帰宅。

十九日　天候同上。

終日在宅。書見ニ耽ケテ黄昏ニ至ル。小泉善幸氏来訪。暫時談話シテ辞去セリ。

二十日　曇　風寒シ

二十一日　時々降霰

午前外出。竪町郵便局ニテ用ヲ弁シ、帰途寺町表具店ニ立寄リ、還暦祝詩、村上、藤脇、横山、信太四氏之分幅物ニ仕立方ヲ注文シタリ。午后、和田氏ヲ雑賀校ニ訪問シテ帰宅、東川某著博士楳謙次郎ナル冊子借受シ、此夜一読午夜ヲ過ク。記事明快頗ル肯綮ヲ得、博士ノ面目紙上ニ躍如、親ク相逢フノ感ヲ以テ通読シタリ。蓋博士ノ如キハ公私両方面ニ於テ得易カラサル一種ノ偉人ナリキ。其音容今尚目睫ノ間ニ存シ、人ヲシテ追懐ノ情ニ堪ヘサラシム。

廿二日　朝降雪　寒甚シ
此日、午后、冨山氏方謡曲復習。
廿三日　微雪
旧藩主松平家ニ対シ、去明治卅年以来献芹ノ微意トシテ、庭園ノ蜜柑ヲ献上スルヲ例トセシカ、本年ハ春雪ノ為メ害セラレ、大凶年ニ付、不得已他産ノ甘柿ヲ以テ代用トシ、此日、通運便ニ托シテ送呈シタリ。
廿四日　半陰　半晴　后微雪如前日
おま起実家母上最終ノ命日トテ、墓参ヲ兼青柳訪問ノ為メ、外出夜ニ入リ帰宅。
廿五日　時々降雪　寒甚シ
此日、歳末用弁ノ為、時々外出。退休閑散ノ身、却テ匆快ノ感アルモ亦一興。呵々。
廿六日　風雪　今朝積雪既ニ三寸餘　引続風雪
此日、亡家厳法照院命日ニ付、墓参ヲ兼外出。称名寺ニモ歳末ノ挨拶ヲ為シタリ。
又、此日ハ例年通餅搗ニテ、早朝ヨリ細田勘蔵夫妻来リ、準備。午后三時過、和楽笑語ノ中ニ結了セシハ心地善カリキ。孫女寛子ハ始メテ餅搗ノ状ヲ見テ大悦セシカ如シ。夫ニ就テモ東西隔居セル他ノ児孫等ノ情況如何哉、好機モアラハ一度皆々残ラスヲ【衍字か】招集シ、一堂ニ会シテ団欒致度抔ノ妄想モ起レリ。
此夜高橋市長退所ノ帰途来訪。暫ク談話ニ時ヲ移シテ辞去。
廿七日　夜来降雪止マス。積雪既ニ尺余
終日年賀状認ム。
廿八日　前日ニ引続時々降雪
此日、敏行神戸発来松ノ電報アリ。児孫等一同喜ヒタリ。午后十時着汽車着松。芳子、春子、誠、健二、一雄等同伴出迎タリ。
廿九日　時々降雪　寒尚甚シ
用弁ノ為メ外出。午后在宿、迎年準備。
卅日　夜来更ニ積雪三寸余　時々降雪
此日、用弁ノ為、時々外出。高橋氏年頭祝詞案、内議ノ為来訪。此夜半頃、門前積雪排除ニ従事。近来大働ヲ為シ、家人等ヲ驚歎セシメタルハ、痛快ナリシ。
卅一日　天候稍回復　半陰半晴
謙一郎今朝カ今晩カ帰省スル筈ニテ、今朝トスレハ、多分十時ナラント存セシニ、京都発下汽車ニテ予定ヨリ早ク帰来セシニ付、一同驚喜シテ迎ヒ、久闊ヲ叙シタリ。
久振ニテ父子揃フテ除夜ノ式ヲ挙ケ、例ニヨリ蕎麦ヲ喫シタリ。唯東西隔居セル二男等一族ノ席ニアラサルヲ遺憾ト為スノミ。

大正七年戊午一月

元旦　穏晴ナルモ積雪尺余
未明起床、謙一郎、敏行、誠、健二、一雄ノ五人ヲ同伴、氏神壹【賣の誤り】豆記参拝、帰テ屠蘇ヲ酌ミテ、迎年ノ式ヲ挙ケタリ。拙者夫婦、謙一郎、敏行、寛子、矢田春子、誠、健二、原一雄九人同席。賑々敷御什煮ヲ喫セシハ近来ノ快感ナリシ。芳子ハ局務ノ為メ大晦日ヨリ四日迄不在。
九時半ヨリ雑賀小学新年式ニ列席。夫ヨリ、母衣小学講堂ニ開設セル官民年始会ニ出席。帰途五六懇意家ヲ訪問。相当ニ酔ヲ帯ヒテ、夜ニ入リ帰宅。
二日　曇　時々微雪

早起食事如前日。終日在宿、賀客ニ接シタリ。此日、偶然、宅和、倉崎、雪吹、長谷川亮一、氏等元修道館関係者ノ同時ニ来訪セシハ愉快ナリシ。

三日　風雪　更ニ二寸余積雪【上欄外に〃あり】

早起食事如前日。午前、午后、外出。三四懇意家ヲ回礼シテ、黄昏帰宅。

四日　微雪

此日、午后、謙一郎主催シテ、家族一同（拙者夫婦、謙一郎、芳子、春子、誠、健二、一雄、敏行、寛子、政子、）十一人同伴、東京庵ニ行キ、蕎麦ヲ喫シテ、帰宅。

五日　時々降雪

終日在宿。謙一郎帰神。荷造ヲ援助シテ、黄昏ニ至ル。森良禧モ、来訪。午餐ヲ共ニシタリ。謙一郎八時過大坂行汽車ニテ、帰神ノ途ニ上ル。敏行、寛子、同伴セリ、ま起ヲ留守番役ニ残シテ、一同見送リタリ、

六日　風雪

東京勧業株式会社事務員田中某、社命ヲ齎ラシテ来訪、種々交渉ヲ試ミタリ。午后、坂井友義氏ヲ其宅ニ訪フテ、夫妻ニ面会、送別ノ挨拶ヲ為シテ、帰宅。午后、矢田蔵氏、石橋喜氏、偶然同時ニ年始トシテ来訪。

【上欄外】此夜慶次郎氏帰村ノ序ニ、誠、健二、一雄、三人同伴セシメテ、年頭挨拶ニ遣シタリ。

七日　風雪【上欄外に〇あり】

東京勧業会社員田中某来訪。冨山氏、来十三日開催スル新年謡会ノ件打合ノ為来訪。午后、四方氏ヲ其宅ニ訪フテ、新年ノ挨拶ヲ為シタリ。

八日　風雪

坂井友義夫妻帰鮮セシニ付、見送リ。尚千家男爵霊柩待受ケシモ、汽車延着ノ為其挨拶ノ機ヲ失シタリ。山陰線近来稀有ノ雪害ヲ受ケタリト云。此日、坂井氏残シ置キタル荷物ノ送付方ニ就キ、駅員ニ交渉。午后四時過、其手□繻ヲ結了シテ、帰宅。

九日　曇　天候稍穏

午后、冨山氏方ニテ謡曲復習。

十日　曇　天候穏和

午后、隣家佐藤ニテ謡曲復習、昨冬約束セシ元修道館蔵書中、史記評林五十冊箱共田中荘次郎氏ニ弐円五十銭ニテ譲与シタリ。

十一日　天候前日ニ同シ

大阪朝日新聞村上寛氏、不日当地引払、本社詰トナリ、出発スルト聞キ、訪問送別ノ挨拶ヲ為シタリ。

石岡吉氏帰来途次来訪セシニ付、晩餐ヲ饗シテ、久闊ヲ叙シタリ。偶、森かめ子年始トシテ来訪。食事ヲ共ニシタリ。

十二日　快晴【上欄外に〇あり】

美谷蔵氏来訪。時事談ニ暫ク時ヲ移シテ辞去セリ。午后、謡曲復習会開催。足立師ト冨山、佐藤来会。

十三日　霜晴　午后小雨

午前外出。門脇秀氏長女死去ニ付、同氏方ヲ吊訪。一旦帰宅。直ニ廣田水亭ニ於ケル新年謡曲会ニ出席。夜ニ入リ、帰宅。同好来会者、足立氏ヲ合セテ廿三人、近来ノ盛況ナリシト云。松江謡曲ノ新年会ニハ始メテ出席シタリ。

十四日　雨雪交下　（此日春子結納到達入手）

終日蟄居。年賀状追加発送ニ従事。

十五日　曇　午后寒気頓ニ催セリ
終日蟄居前日ニ同シ。
十六日　夜来又々風雪　黄昏特ニ甚シ
終日蟄居如前日。黄昏、平壌府尹本田常吉氏帰任ノ途次トテ来訪セリ。
八時過発汽車ニテ発程セシニ付、停車場ニ見送レリ。
十七日　前日来降雪新ニ一二寸餘ニ及フ　晴　風寒シ
午前外出。市役所及青柳等訪問シテ帰宅
十八日　曇　風寒シ
此日、午前、午后共外出。春子ヨリ曳野ニ対スル結納品ニ関スルヲ【衍か】用ヲ弁シ、午后、小畑氏宛小包ニテ目出度発送ヲ終リ、一ト安神セリ。
十九日　風雪　新ニ積雪二寸餘ニ及フ　【上欄外に○○あり】
晩餐后、外出。一二用ヲ弁シ、帰途、津田街道理髪店ニテ理髪中、偶然高橋氏ニ出逢、理髪了テ更ニ同氏方訪問。十一時頃帰宅。此夜降雪甚シ。
廿日　夜来無風降雪
午后二時ヨリ、雑賀校下卒業会ノ主催スル加田氏選奨祝賀会ニ臨席。一言ノ祝意ヲ述ヘ、式了テ、直ニ藤脇郡長韵事的招飲ニ応シテ、其邸ニ至リ、夜半帰宅（但帰途車ハ同氏ノ厚意ニヨル）。
廿一日　晴　暮寒甚シ
午后、謡曲新年会計算顚末、并新組織下問議ノ為メ、冨山、佐藤両氏来訪。楼上ニテ暫ク協議ニ時ヲ移シテ退散。
廿二日　穏晴
此夜、ま起事青柳姉上見舞ノ為往訪、一泊。
廿三日　曇　時々微雪
無記事。
廿四日　夜来又々微雪【上欄外に、あり】
午后、勝部医師来訪ヲ機トシ、感冒ノ気味ニ付診断ヲ受ケシモ、禁酒且服薬スルマテノ事ナシトテ、安神。
廿五日　朝来又々風雪甚シ　正午新ニ積雪三寸余
感冒気味ニテ終日静養。
廿六日　天候稍穏和
午前、外出。市役所ニ出頭。用ヲ弁シ、帰途、久保田竹次郎氏方ヲ吊問。更ニ青柳ニ立寄、帰宅。
此日、大坂ノ浪華突然来松シテ、過訪宿泊。
廿七日　曇　天候穏
此日、芳子部下郵便局員新年会開催。
午前、浪華ヲ案内シテ賣豆記神社及菩提所[illegible]ナル称名寺参詣。且、雪踏ミ分ケテ、父ノ墓所ニ参拝セシメテ、帰宅。昼飯后、途中迄案内シテ、坂井氏方ヲ訪問セシメ置テ、帰宅。
廿八日　曇　風雪
終日静養枕臥。感冒兎角不快ニ付、遂ニ勝部医師ノ来診ヲ求メテ、服薬。
廿九日　快晴
気分快方。尚在蓐静養。甥浪華坂井氏ヨリ帰来。午后、田中荘氏来訪。在蓐ノ儘、面会。暫ク談話ニ時ヲ移シタリ。

【封入文書　切紙】
日本外史　大本　二十巻
弁道壱巻弁名弐巻　~~弐壱巻~~

中庸解　壱巻
郭註荘子　十巻
孔子家語　五巻
素読本礼記　四巻
書経　二巻
春秋　一、
易経　二、
学、庸、　各一、
世説新語　上下
世説新説　九巻
左伝弁譌　二巻
雪陽秘記

卅日　風雪
此日、稍軽快ナリシモ、尚服薬臥床静養。
春子発熱、三十九度ニ及ヒシヲ以テ、勝部氏来診ヲ求メ、且、服薬静養セシメタリ。
卅一日　午前穏晴　午后又々微雪
主人軽快起床。春子稍軽快ナルモ、尚臥床静養。大坂浪華、午前拾時過大坂行汽車ニテ、帰坂セシメタリ。同人儀、精神過労ノ為メ乎、精神ニ時トシテハ稍異状ヲ呈スルナキヤノ疑アリ。能ク訓諭ヲ含メテ帰シタリ。前途有為ノ青年ニシテ、此兆候アリ。同家ノ為メ、又本人ノ為、気毒ニ堪ヘス。真ニ人生ノ悲惨事ナリ。停車場ニ見送リ告別ノ際、哀憐ノ余、暫ク暗涙ノ禁シ難キ者アリキ。此日、岩田屋へ大本売却シタリ（代弐円八十六銭）。

二月

一日　快晴【上欄外に、あり】
午前外出。北堀坂井氏ヲ訪問セシモ不在。門戸閉鎖ノ為メ空帰。此夜浪華ヨリ（サクヤキタクシマシタ）ト打電アリ。
二日　快晴
春子全快起床。此夕、今市日野外助氏代理トシテ、其末弟天神町細木栄之助氏来訪。
三日　陰晴不定、時々驟雨
此日節分トテ、ま起単独ニテ大社参詣セリ。
四日　穏晴、
誠、健二、昨夕ヨリ発熱ノ気味アリ。醫師ノ診断ヲ受ケシモ、一時ノ事ニテ、此日午后ヨリ出校セリ。
五日　穏晴
午前外出。楪大仙師ヲ洞光寺ニ訪問シテ、葦津和尚肉筆ヲ示シ、暫時談話シテ帰宅。
午后、更ニ外出。本町佐藤氏訪問。帰途天神社参拝シテ、帰宅。此日、一雄感冒熱発ノ為静養セリ。
六日　降雨陰鬱、
終日在宿、一雄尚静養。
七日　風霰、寒甚シ
終日在宿。書類整理。
八日　半陰半晴風寒シ【上欄外に、あり】
此日、午前、ま起事坂井氏方訪問致サセタリ。午后、謡曲稽古会開催（土曜日ト取替ニシテ）佐藤欠席。ま起坂井訪問セシモ、不在ニテ空帰。

九日　霜晴　黄昏ヨリ微雨。
ま起事一雄用弁ノ為、中学校ニ出頭。帰途、坂井方再訪セシム。午后、郡会議事堂ニテ開催ノ弘道会ニ出席。西邨知事ノ講話聴聞。
十日　陰　后晴
此日舊大晦日ニモ相當シ、且天候ノ都合等ニヨリ、旧下男長太郎来訪セシヲ幸ニ、再度ノ餅搗ヲ為シタリ。
十一日　穏晴
此日、八時三十分発下汽車ニ便乗。簸川地方ニ出遊、今市片岡旅館ニ投シ、旧知人日野外助氏ト会見、午餐ヲ共ニシ、了テ三時過、塩冶矢田訪問。一泊。
十二日　穏晴
午前、傳四郎氏案内ニテ付近散策ノ序ニ、宍道啓次郎氏ヲ訪問セシモ、外出中面会ヲ得ス。午餐ニ蕎麦ノ饗応ニ預リ、満腹満酔ノ後、辞去。今市五時卅餘分ニテ帰松。
十三日　穏晴
午前外出、高橋市長ヲ市役所ニ訪問。東京近状ヲ聴聞シテ帰宅。
十四日　穏晴【上欄外に〇あり】
午前外出、藤脇郡長ヲ郡衙ニ訪問。暫ク談話ヲ為シテ帰宅。此夕、例年通四方氏開業記念日ニテ、祝賀席ニ参席シタリ（貳銭生菓子廿個寄贈シタリ）。例年酒ヲ用ヰシモ、主人禁酒主義ノ下ニ、自己ノ好マサルモノヲ以テ客ニ饗スルハ、失敬ナルコトヲ自覚シ、今回ヨリ酒ヲ廃シ、代フルニ葡萄液ヲ以テスル故、微意ヲ諒シテ、復々放談放食セラレタシトノ挨拶モ亦一興アリシ。十二時前帰宅。
十五日　稍晴　黄昏ヨリ微雪
此日、旧任地女濱校書記今田ト、中学書記湯浅二氏来訪セシニ付、正午過ヨリ小酌ヲ催フシ、四時過発汽車ニテ見送リ置キ、夫ヨリ青柳氏ニ至リ、新年小宴ノ意味ニテ晩餐ノ饗応ニナリ、九時過帰宅。此日、坂井未亡人雪子、孫二女同伴来訪。
十六日　曇
此日、塩冶矢田老人、孫女ト石岡母子計四人連ニテ、突然来訪、一泊。午餐后、雑賀并床几山、天神境内等案内シテ、夜ニ入リ帰宅。更ニ、晩餐后、春子弾箏等ニテ歓待シ、了テ、寝ニ就カシム。□。此日木村（唯夫）歩兵少佐、廿一聯隊へ転任ニ付、其妻君告別トシテ来訪セシニ付、答礼トシテ一文字屋支店ニ同氏ヲ訪問シタリ（児孫ノ関係ニヨル）。
十七日　朝霜晴　后曇更降雪。
午前、芳子同伴シテ石岡晴子等母子ヲ案内シテ、城山天主閣、興雲閣、物産陳列場、県庁舎内部等参観シ、午后一時過、帰宅。午餐了テ、矢田老人始皆々機嫌能ク四時廿分発汽車ニテ帰邨。
十八日　夜来降雪積ムコト寸餘　寒甚シ
無可記事。
十九日、曇【上欄外に、あり】
青柳姉上年始トシテ来訪一泊。坂本昌訓氏死去ノ報ニ接シ、直ニ吊問シタリ。
廿日　天候穏和
田中荘氏来話。此夜、坂井本氏葬儀ニ参列セリ。
廿一日　天候穏和
午前坂井本氏法事ノ為、妙興寺ニ参詣列席。正午過、帰宅、午餐后更ニ外出。松平家用邸、工業学校、及青柳氏ヲ歴訪シテ帰宅。此夜角田勝三郎氏来談。

廿二日　朝来微雪　后晴
終日在宅。書簡整理ト発信用ニテ打過キタリ。
廿三日　穏晴
午後、冨山氏方ニテ謡曲稽古。
廿四日　快晴　【上欄外に、あり】
午前、目次スゞ子ヲ技芸校ニ訪問シテ、万歳氏年忌ニ関シ吊詞ヲ述ヘ、一旦帰宅。更ニ坂本老祖母并寺町佐々木庄兵衛死去ニ付歴訪、弔詞ヲ述ヘ置キタリ。
午后二時ヨリ、法吉村井上井蛙宅百本梅花屋ニテ、開催シタル剪淞吟社雅集ニ出席シタリ。出席者藤脇、横山、田代、谷口、及余ト主人ヲ合セテ六人ナリキ。雅談ト作詩ニ時ヲ移シテ、午夜ヲ過ク。依テ余ト横山氏トハ遂ニ一泊シタリ。実ニ近来ノ一快適ナリキ。
廿五日　快晴
朝餐后、井上氏ヲ辞シ、横山氏ヲ停車場ニ見送リ、十一時帰宅。午餐后、寺町本龍寺ニテ執行セシ佐々木庄兵衛ノ葬儀ニ参列シタリ。此夜、高橋市長上京セシニ付、其宅ヲ訪問面別シタリ。
此日、米国ヨリ昨年末特別事情ヲ述ヘテ依頼シタル件ニ関シ、希望通ノ快報ヲ得、一陽来復ノ思ヲ為シ、大ニ気勢ヲ増シタリ。
廿六日　穏和ノ天候　半陰半晴　夜雨
此日、永野牧師未亡人一周忌ニ付、午后七時ヨリ招待ニ応シ、牧師館楼上記念式ニ参列。
廿七日　風雨
終日在宿。
廿八日　東北風　曇
終日在宿。諸払整理。此夜、永野武二郎氏答礼トシテ来訪。此日、雛道具陳列セリ。春子ノ都合ニテ、本年ニ限リ、特ニ新暦ヲ使用シタリ。

三月

一日　朝晴　午陰微霰【上欄外に、あり】
無記事。
二日　曇
午后、佐藤氏方ニテ謡曲稽古。
此日、第六十八回勧業債券壱枚購入。
番号　五ノ組第五五〇四六番
三日　霜晴
此日、用談ノ為来訪セシハ角田勝三郎氏ニテ、他ハ男ニテ石橋喜市、引野夫右衛門、女ニテ森本祖母、青柳姉上、旧下女お園、忌部門脇舅姉二人、岩坂炭屋婦、水浦志女等偶然来訪セシモノ数人、近来稀有ノ事ナリシ。石橋氏ハ一泊、森本老母ハ夜ニ入テ辞去。
四日　前晴后曇夜雨
石橋氏、午后四時過下汽車ニテ帰村セリ。此日、神戸駅鉄道便ニ托シテ、節句菓子少許送付シタリ。
五日　曇【上欄外に〃あり】
無記事　午后、春子同伴、工業学校ニ行キ、鏡台撰定。
六日　曇
此朝、久々ニテ京城ヨリ通信アリ。一同元気、健康状態近来無比トノ事ニテ、愁眉ヲ開キタリ。
此日、午后ヨリ、永野老母来泊。
七日　曇　后晴
午前、山嵜多助氏ヲ皆美館ニ訪問シテ、久闊ヲ叙シ、夫ヨリ桑原羊次郎、向坂弘氏方ヲ歴訪シ、一旦帰宅、喫飯。更ニ北堀ノ宅和、山本、

倉崎及中原ノ森氏ヲ訪問。同氏方ニテ小酌。帰途、母衣ノ江田、草光諸氏ヲ歴訪シテ、點灯后帰宅。

八日　曇

午前、中澤米二郎ノ依頼ニヨリ、其子供慶氏死亡届其他ノ件ニ付、市役所ニ出頭打合。帰途、小原氏ニ立寄、暫時談話ノ后、更ニ宅和氏ヲ修道館ニ訪問。鏡台購入ノ事ヲ確約シテ帰宅。

九日　晴【上欄外に、あり】

午前、工業学校ニ至リ、鏡台購入ノ手続ヲ終リ、夫ヨリ藤脇氏ヲ郡衙ニ訪問シテ韵事用ヲ弁シ、帰途、春子準備ノ用件一二ヲ弁シテ、帰宅。此日、午后、謡曲稽古定日ナリシモ、惣方差支ノ為延期。

十日　朝来降雨　后陰風激甚

無記事。

十一日　陰風

福田仁市郎採用之件、在京城小松氏ヨリ急信ニテ申来リ、直ニ其旨本人ニ伝達シタリ。然ルニ、本人既ニ他ニ約束セシヲ以テ辞シタリ。西山局長告知ノ為来訪。

十二日　穏晴

午前、加田氏ヲ雑賀校ニ訪ヒ、朝鮮教員志望候補ニ関シ談話。了テ、四方田ヲ訪ヒ、在台湾山根死去ノ吊詞ヲ述ヘ、夫ヨリ西山局長方挨拶ニ訪問。市役所ニ出頭、水道用ヲ弁シテ、帰宅喫飯。午后、嶋田俊雄氏来訪。在米矢田一行ノ消息ヲ詳細ニ報告シタリ。

十三日　晴【上欄外に、あり】

午后、花田尚真氏、田中荘次郎氏来訪。此夕、本庄太一郎氏招飲ニ応シ、臨水亭ニ至リ、夜深帰宅。

十四日　晴

午前、嶋田俊雄氏ヲ美皆【皆美の誤り】館ニ訪問シテ、前日来訪ノ厚意ヲ謝シタリ。

此日、濱田ノ謡友三澤了三氏、上京途次トテ来訪セシヲ以テ引留メ、午餐ヲ共ニシ、夕刻散策ヲ試ミ、床几山ヨリ城山ニ至リ、市内一半ヲ案内シ、帰途其旅館岩田屋ニ立寄リ、小酌ヲ催フシ、且喫飯シ、卌八時廿五分発汽車ニテ上京セシニ付、停車場ニ見送リテ、帰宅。

【上欄外】田村、弓八幡、景清等二三番同唱ヲ成シテ

十五日　晴　黄昏ヨリ雨

午前、本庄氏ヲ其宅ニ訪問。招飲ノ謝意ヲ述ヘ、暫ク談話シテ辞去。午后、本町佐藤半農氏ヲ訪問。其女婿小松氏消息ヲ聴取シテ、帰宅。

十六日　雨

加田雑賀校長来訪。鮮地教員志望者之件ニ付、打合セタリ。

十七日　曇

十八日　晴【上欄外に、あり】

此日、春子祖母同伴、告別ノ為大社参詣ト塩冶訪問卌ヲ兼。午前八時半発汽車ニテ西行。

同十時過、上汽車ニテ荒嶋佐々木氏ヲ訪問シ、物故セシ善右衛門氏ノ吊詞ヲ述ヘ、且墓参ヲ為シテ、午后帰宅。黄昏、本町佐藤氏訪問。小松夫人ト晩餐ノ饗応ニ預リ、八時過帰宅。

十九日　半陰半晴

午前十時ヨリ挙行セシ松江高等女学校卒業証書授与式ニ参列。正午帰宅。

廿日　前曇　后晴

此夕、春子等簸川ヨリ帰来。

廿一日　晴　午前、松浦氏来訪、暫ク談話。

夕刻、鶴島定市氏依頼シ置キタル中澤米太郎ト今岡家事件打合ノ為来訪。高麗仙太郎来訪。此夜、謡曲会組織ニ関シ、冨山氏宅ニ会合協議。

廿二日　晴

午后、松江技芸学校生徒学芸成績品展覧場参観。

廿三日　晴　【上欄外に、あり】

午后、隣家佐藤ニテ謡曲稽古。四時過ヨリ、殿町西濱旅館ニテ開催シタル剪淞吟社例会ニ出席。夜半ヲ過キテ帰宅。

廿四日　曇

午前、田中氏ヲ其宅ニ訪問シテ、暫ク談話ヲ交ヘテ帰ル。

廿五日　風雨

健二付属小学校卒業セリ。此日、証書授与式アリ。保護者トシテおま起参列。健二拝受セシ賞品、銀製ノ賞牌ト大楠公一冊。

廿六日　風雨

廿七日　寒風微霰

此日、中学校成績発表。誠ハ三年ニ、一雄ハ二年ニ昇級セリ。

廿八日　晴　【上欄外に、あり】

此日、午后四時ヨリ、曳野氏ト矢田氏父子ヲ招待シテ、春子ノ為メ留送別ヲ兼テ、小宴ヲ催フシタリ。矢田老人不参ナリシハ遺憾ナリシ。両人共一泊。

廿九日　曇　后雨

【上欄外】此日、草光、目次両氏来訪。

曳野氏ハ朝餐后辞去。矢田慶氏ハ午后七時発下汽車ニテ帰邨。此日、春子荷物準備ニ着手。

三十日　風雨

春子荷物整理。不取敢三個送出シタリ。

卅一日　快晴

此日、春子告別トシテノ為メ各知人方ヲ訪問セシメタリ。

四月

一日　曇　【上欄外に〉様の印あり】

終日、春子上京準備ニ忙殺セラル。

二日　晴　夜雨アリ

此日、春子上京ノ為訪問者アリ。家族一同午餐ヲ共ニシテ、告別ノ式ヲ為ス。午后八時過発汽車ニテ出発セシメ、余一人留守番ヲ為セリ。

三日　早朝好晴　后降雨

此日ハ、何トナク寂然ノ感ニ堪ヘサリキ。佐藤半農氏女婿小松氏来松セシニ付、后五時ヨリ廣田水亭ヘ招待ヲ受ケ参席シタリ。同席者小松夫婦、佐藤両分家、高橋、余ト主人ノ七人ナリシ。

四日　晴

早起、松原御馬場迄散歩ヲ試ミタリ。小松氏十時過発車ニテ出発セシニ付、見送リタリ。

五日　曇　【後補】此日大森喜、山口代氏来訪。【上欄外に、あり】

午后、足立氏来訪、謡曲稽古。富山氏出席、佐藤不参。

六日　曇

此日ハ、春子東京ニテ婚儀挙行ノ当日ニ付、黄昏過、曳野、小畑、曽田宛挨拶ノ電報ヲ発シタリ。

七日　微雨

前夕八時、東京渋谷発ニテ婚儀無滞済マシタトノ電報、此朝入手。大ニ安神シタリ。

八日　曇

健二同伴保護者トシテ松江中学入学式ニ参席シタリ。此日、午后、飯

国重之助ヨリ依頼ノ件ニ関シ、田中融氏ヲ商業校ニ、山本庫氏ヲ其宅ニ訪問、打合ヲ為シタリ。

九日　曇 風寒 后降雨【上欄外に、あり】

謡曲稽古場設置ノ件、同好者ト協議纏マリ、殿町ニ借家シテ、此夜開場ノ小会ヲ催フシタリ。会者冨山、小村、皆美、余、外ニ今一人計五名ナリシ。

十日　時々小雨 風寒

十一日　曇 風寒

【後補】此日、米国ヨリ香西某ニ托シ送品アリタリ。

富山氏来訪。謡曲会ノ事ニ関シ打合ヲ為シ~~テ~~辞去セリ。

十二日　晴 后曇

午前、福岡氏ヲ其宅ニ訪問。明清人ノ書画ヲ一覧シ、帰途、足立謡曲師ヲ其道場ニ訪ヒ、一曲ヲ復習シテ帰宅。午后、中沢米氏委託書面ヲ鶴島氏留守ニ持参シテ依頼シ置キ、帰途、鈴江某ヲ訪ヒ、米国ヨリ帰朝セシ香西某ノ事ヲ尋ネ、且前日来訪ノ謝意ヲ伝言シ置ケリ。

十三日　晴【上欄外に、あり】

此日、下リ汽車三番ニテ発、大原郡出遊。海潮温泉一泊、

十四日　晴

午后、海潮温泉発、六時過木次着。石橋方投宿。

十五日　晴

午后、喜市氏同伴、飯石郡一ノ宮邨峯寺参詣。

十六日　晴

午后、木次発。四時過、帰松。此夕、藤脇氏病気ト聞キ、其宅ニ慰問。

此日、在坂友人桑原氏十四日死去ノ報ニ接シタリ。

十七日　晴

此日、午前東京春子ヨリ悔悟的ノ謝状来リ、稍愁眉ヲ開キタリ。山陰大詩会ノ件ニ付、田代習氏ヲ其宅ニ訪ヒ、尚電話ニテ井上氏ト打合ヲ為シ、来月五日ニ延期シタリ。午后、足立氏訪問、謡曲稽古。此夕、青柳姉上留守見舞トシテ来訪。

十八日　晴【十八日と廿八日が大丸括弧「〔〕で結ばれている】

【上欄外に、あり】

此日、夜汽車ニテ発、神戸ニ向フ。翌十九日着神。廿八日迄滞留、其間、坂神地方知人訪問。

【上欄外】此間坂神地方出遊。

廿八日　晴【上欄外に、あり】

夜汽車ニテ発、大坂経由、翌日朝帰松。

廿九日　晴

午前八時過帰宅。夕刻、鶴島定一氏来訪。中澤米次郎依頼ノ今岡家相続事件取扱済ヲ報告セリ。依テ更ニ不動産相続登記件ヲ依頼シタリ。

三十日　雨

午庵前、隣家佐藤訪問、午后、殿町小泉、田町青柳、〃丹羽、及本町佐藤諸氏ヲ歴訪シテ帰宅。

五月

一日　晴

午后、足立謡曲稽古場訪問復習、小林氏と同唱。帰途、同氏方ニ立寄、本月分会費入賃。此夜、堀尾氏訪問。矢富翁遺墨借用之件、打合セタリ。

二日　晴【上欄外に、あり】

堀尾氏矢富翁遺墨一幅持参。来五日山陰大詩会席上展覧用ノ為メナリ。午前、冨山氏ヲ訪問。

此夕、郵便局員安部、枚谷二氏、芳子ノ関係上牡丹見ト称シテ来訪セシニ付、晩餐ヲ共ニシ且謡曲ノ復習ヲ試ミタリ。同氏等ハ皆観世流ナリ。

三日　晴

午后、足立氏謡曲研究場出席。

四日　前晴　后　暴風雨

無記事。

五日　快晴【上欄外に○あり】

松崎水亭ニテ、午前十時ヨリ開催ノ第十一回山陰大詩会ニ出席。午后五時過、帰宅。此日、石岡吉之助氏来訪一泊。

六日　晴　（湯賃　3.）

午前八時八分発上汽車ニテ、石岡氏上京ノ途ニ上ル。午前、前郵便局長山田重郎氏ヲ某赤木旅館ニ訪問。夫ヨリ殿町大谷清志氏ヲ訪問。三澤氏ノ件ヲ打合セテ帰宅。午后、曳野良一氏親父来訪。春子送籍ノ件ニ付、打合アリ。調印ノ為メ携帯書類二通預ケ置ケリ。

七日　午前雨　后晴　（此日夕刻田中氏来訪）

午前、大谷氏ヲ其宅ニ訪ヒ、三沢氏推薦書ニ調印ヲ求メテ帰宅。元郵便局長山田氏行違ニ訪問セラレシ由。此夜、元同僚岡邨氏上京途次ニ訪問。新旧談ニ時ヲ移シ、午時ヲ過キテ辞去。

八日　晴

岡邨氏夫人来訪。暫時ニシテ其一行ヲ一文字屋支店ニ訪ヒ、且十時発汽車ニテ出発ニ付、見送リ置キ、夫ヨリ足立氏ヲ訪問、三沢氏推薦書ニ調印ヲ求メ、了テ、帰途、山田氏ヲ其旅館ニ訪フテ、一旦帰宅。更ニ后一時過汽車ニテ帰坂ニ付、見送タリ。此夜松江坐ニテ開催シタル欧州戦況講演会ニ出席傍聴。十時過、帰宅。

九日　晴【上欄外に、あり】

午后、下リ一番汽車ニテ塩冶ニ至リ、春子送籍書類ヲ取纏メ、黄昏、帰松。

十日　微雨　（入浴　2、）

此日、書留郵便用ノ為メ郵便本局ニ出頭シタル外、在宿静養。

十一日　晴

午前、田中荘氏来訪。其邸内藤花満開ニ付、来観ノ案内アリ。午后、往観。

十二日　曇

午前、村上、藤脇両氏ヲ其宅ニ往訪セシモ、各在不在ニ付、面談ヲ得ス。帰途、城山興雲閣ニテ開催セル珎書展覧会参観。

十三日　夜来降雨　后晴　風強シ【上欄外に、あり】

午后、謡曲稽古ニ出席。不在中、村上琴屋氏来訪ノ由、依テ書簡ヲ以テ更ニ来訪ヲ求メ置キタリ。

十四日　晴

此日、村上氏来訪ヲ約セシモ、法吉邨井上氏ヨリ電話ニテ交渉ノ結果、同氏方へ出浮、三人鼎坐、囲碁ニ時ヲ移シテ、夜半過帰宅。

十五日　晴

終日在宿。午前、灸治。

十六日　快晴　（入浴3、）

十七日　晴　后曇

此日、謡曲稽古。

十八日　晴【上欄外に、あり】

此日、四方ニテ歯ノ治療ヲ受ク。在京善一郎ヨリ赴任準備ニ関シ、特殊ノ請求ニヨリ70、山本銀行ヨリ借出シテ、芳子ニ送付セシメタリ。

山陰オリンピック大会、本日ヨリ開催ニ付、市内学生徘徊雑沓。

十九日　曇　午后降雨

午前、藤脇松軒氏ヲ其宅ニ訪問、暫ク詩話ヲ試ミテ帰宅。午后、田中氏来訪、同時ニ石橋氏子供両人同伴来訪。暫ク談話。四時発汽車ニテ帰村。此日、栗田徳氏夫人来訪セシ由ナルモ、行違、面会セス。

廿日　晴　（入浴2、）　后曇強風

午前、栗田氏夫人来訪。依頼ニ関スル書状認メテ渡シタリ。啓次郎知人ナル在朝鮮歩兵七八聯隊、陸軍歩兵中尉武多弘氏結婚ノ為、帰国シタリトテ、来訪。啓次郎ヨリ托送セル子供写真ト（ウェスキー）一瓶持参セリ。

此夜、〃半過、横濱荒川方細工場失火。

【上欄外】春子入籍之件、此日ヲ以テ届出候旨、曳野父親ヨリ通知シ来レリ。

廿一日　曇　風強【上欄外に：有り】

廿二日　快晴

午前八時半発汽車ニテ西遊、温泉津ニ至リ一泊。此夜、偶然酒井三十堂主人并開亀堂主人石原氏ト同宿（益屋旅館）。

○廿三日　晴　温泉津朝発、太田駅【ママ】ニ至リ環翠楼ニ投宿。午餐后、静之窟見物シテ帰宿。此日、恒松昇、和田老人父子、恒松姉妹、井上~~ヨト父子~~庫之介、并高橋金作諸氏来訪。

○廿四日　晴　此朝、井上コト来訪。午前、太田【ママ】発一番汽車ニテ発、十二時過木次ニ至リ、石橋氏方投宿。

○廿五日　晴　此夕、臨水閣ニテ開催候剪淞吟会例会ニ出席。

○廿六日　曇、后烟雨　此日、午前ヨリ夕刻、前夜ノ雅席其侭ニシテ清遊。六時、各分手シテ帰途ニ就ク。余ハ石橋方へ帰泊。

○廿七日　朝晴　后曇【上欄外に、あり】

木次発三番汽車ニ便乗。十二時過帰宅。西郷原饒氏ト同行セリ。此夜栗田夫人ヲ其実家ニ訪フ。

廿八日　晴

栗田夫人午前八時発汽車ニテ帰鮮ニ付、停車ニ見送リタリ。又歩兵中尉武多弘氏夫妻夜行汽車ニテ帰鮮スルニ付、見送タリ。此日、石原徳信氏来訪。製絃会社ノ件。

廿九日　晴　（入浴3、）

稲垣某製絃会社ノ件ニ付、来談。夕刻、田中荘氏旧交会ノ件ニ付、来談。ま起事此夜最終汽車ニテ神戸ヨリ帰来セリ。

卅日　晴

午前、草光氏ヲ其宅ニ訪問シテ、久三郎氏帰国弁護士開業ノ祝詞ヲ述ヘ、帰途付属小学校ニ至リ、藤波氏ニ面会ヲ求メシモ、不在ニ付、代理訓導某ニ面会。在米矢田ヨリ奨学金寄付之件伝達シ置キタリ。更ニ赤木館ニ高橋梅園氏ヲ訪ヒシモ、外出中ニ付、名刺ヲ残シテ、伝言シ置キタリ。

卅一日　曇、

午后、付属小学校主事藤波氏来訪。矢田ヨリ奨学基金寄付願出手続ニ打合ヲ為セリ。

六月

一日　曇【上欄外に、あり】

此日、午后四時ヨリ廣田水亭碧雲楼ニ於テ旧交会開催、出席者高橋、田中、松浦、堀尾、小泉、中島、余ト七人ナリキ。旧下女寄藤ツネ来ル。京城啓次郎方奉公打合ノ為ナリ。

二日　曇、

午前八時半、友人桑原氏遺骨到達ニ付、停車場ニ吊迎シタリ。夕刻、冨山氏訪問、臨時謡曲復習。

三日　晴

午前向坂、坂井、森、三氏ヲ其宅ニ、及野津八太郎氏ヲ錦織病院ニ訪問シテ帰宅。午后四時ヨリ、故友人桑原氏埋骨式并四十九日法要ヲ寺町常教寺ニ於テ施行セシニ付、参列ス。

四日　曇

午前八時半発下汽車ニテ、旧下女常子渡鮮ノ途ニ就キシニヨリ、政子同伴、見送レリ（啓次郎方ニテ使用スル為メナリ）。

五日　曇

三澤氏東京ヨリ帰途立寄、午前、来訪。午后、同氏ヲ皆美館ニ訪問后、足立氏訪問セシ処、芦田、皆美、小林、景山、江田諸氏偶然相集リ居タルヲ幸ニ、三沢氏ヲ招キ、田村、黒塚二番ヲ同唱。夜ニ入テ帰宅。

六日　曇　風アリ【上欄外に、あり】

此夜、坂井氏ヲ松江病院ニ慰問シ、同時ニ河上英氏死去セシニ付、同院ニ吊問シタリ。

七日　曇

三澤氏夫人帰濱セシニ付、停車場ニ見送リタリ。帰途、本町佐藤喜八郎氏ヲ訪問。久闊ヲ叙シ、且一二要件ヲ談シ、了テ、午餐ノ饗応ニ預リ、三時過辞去。夫ヨリ足立氏方ニ至リ、謡曲一番復習シテ帰宅。

八日　曇

八時半、河上氏遺骨ヲ停車場ニ見送リタリ。午后、冨山氏方ニテ謡曲一番復習。

九日　曇【上欄外に…あり】

午前十時ヨリ、興雲閣ニテ開催セル布志名神社建立発企人惣会ニ出席。午后、中学教員葛目氏ノ為メ、廣田水亭ニテ開催セル謡曲會ニ出席。夜深、帰宅。

十日　曇　（入浴23-）

終日在宿静養。午后、河本氏来訪。芳蔵氏縁談申込ニ関シ、打合セヲ為セリ。

此夜、佐藤半農氏来訪。其誘引ニテ相携散歩。桂亭ニテ小酌ヲ試ミ、帰途、同氏夫人梅子母子ヲ伴ヒ、四人大橋下船ニテ鰻魚ヲ食シテ、帰宅。時正ニ十二時過。

十一日　曇

午后、田中荘氏并森有禧来訪。

十二日　曇【上欄外に、あり】

午前、邇摩久利小学校長原嘉太郎来訪（旧門下生）。午后、隣家佐藤氏ト同伴、足立氏方ニ至リ、葵上一曲復習。

十三日　曇　（旧端午節）

午前、本町佐藤氏訪問。雅談ニ時ヲ移シテ、遂ニ午餐ノ饗応ニ預リ、二時帰宅。夕刻、竪町野波ヨリ特別ノ案内ニ任セ、往訪シテ入浴シタリ。

十四日　曇

午前、灸治静養。胃部不出来ニ付、勝部醫院ニ就テ診察ヲ受ケ、服薬。午后、足立氏稽古場訪問。

十五日　曇

午前灸治。坂井友義氏ヲ病院ニ訪問シテ、仁多郡灸点師山田氏招聘ノ打合ヲ為シタリ。此夜、京店園山書林訪問。金子亀五郎氏吊慰金壱円渡置キタリ。

十六日　日曜　曇【上欄外に、あり】

午后、仁多灸点師山田出松候ニ付、坂井氏方へ同伴紹介シタリ。
十七日　半陰半晴
午后、隣家佐藤氏同伴、足立氏稽古場ニ出席。此夜、冨山氏訪問。同氏夫人ノ小鼓ニテ数番合唱。
十八日　半陰半晴
午前、坂井氏慰問。夫妻共、灸治ノ効アリシ心地セリトテ、喜ヒ居レリ。此夜、足立氏稽古場ニ有志集会シテ、廿三日開場披露ト免状披露会ノ打合ヲ為シタリ。
十九日　陰雨
午后、足立氏謡曲稽古所ニ出席。
廿卄日　曇　　此日、坂井老母家事打合ノ為来訪一泊。
謡曲会場開ノ件打合ノ為、本町小邨氏訪問。更ニ同氏同伴、京店皆美氏訪問シタリ。
廿一日　曇
午前、皆美、小村二氏来訪。謡曲会打合ヲ為シタリ。午后、坂井氏ヲ慰問。帰途、足立氏稽古場ニ立寄、黄昏、帰宅。此夜、田中氏来訪。又ま起同伴、坂井老母ヲ帰宅セシメタリ。
二十二日　晴【上欄外に〃あり】
午前、加田氏ヲ雑賀学校ニ訪問。高橋市長祝賀会ノ打合セヲ為シ、更ニ田中氏ヲ訪問シテ、帰宅。午后、濱田女校職飯島貞子来訪。暫ク談話ニ時ヲ移シテ辞去。
廿三日　陰雨　后　暴風雨
午前、松浦氏来訪。午后、豫定通謡曲会ヲ足立氏稽古場ニテ開催。同好者十六七人晩餐ヲ共ニシテ、十一時過帰宅。
廿四日　晴
午前、藤脇松軒氏ヲ訪問。帰途、坂井氏ヲ慰問。正午過、帰宅。電話ニテ坂井氏診療ノ事ヲ菅田井上醫師ニ紹介シ置キタリ。吉邨政次郎来訪、告別。
廿五日　陰雨
藤脇松軒告別ノ為来訪、藤岡宏一氏同上。製弦会社ノ件ニ付稲垣某来訪。中沢氏依頼ノ件打合ノ為、鶴島氏来訪。
廿六日　午前降雨　后晴【上欄外に、あり】
此日、神戸ヨリ始メテ為替来リ、神棚并祖先ニ奉告セリ。午后六時ヨリ、高橋氏教育功牌受領ニ付、雑賀部内有志主催祝賀会ニ出席。十時過、帰宅。
廿七日　曇（入浴3、）（此日、京城ヨリモ為替来着、同上奉告）
京城ニテ、去十九日午前九時半女児出産（美代子（ミヨ））命名ノ旨、来書ヲ得、直ニ市役所ニテ出頭、届出置キタリ。
廿八日　曇　時々微雨后微晴
午前、坂井氏ヲ慰問。帰途、長谷川能義郡長訪問、帰宅。
廿九日　晴　暑気比較的甚シ
米国ヨリ為替着、金員入手。田中氏訪問。高橋氏来話。
卅日　晴　熱度九二。度　頗苦メリ【上欄外に、あり】
終日在宿。諸拂整理ニ忙了。在長崎善一郎ヨリ為替始メテ来ル。依テ神佛ニ祭告、本人ノ卌申出ニ催ヨル。

〔付記〕
本稿は、
科研費基盤研究（C）研究課題／領域番号　22K00340　近代漢詩が形成する山陰地域の文化教養環境―漢詩人と官僚・政党政治家の

交遊の分析（期間二〇二二～二〇二四年度研究代表者　要木純一）
及び、
島根大学法文学部山陰研究センター　山陰研究共同プロジェクト
近代山陰地域の文化教養環境における漢詩文の位置―若槻克堂
と剪淞吟社の学際的研究（課題番号二二一一三　期間　二〇二二～
二〇二四年度　研究代表者 要木純一）
による成果の一部である。

Reprint ; Diary of Watanabe Kanichirou: 1917-1919（Ⅰ）

Research Project on Works of Watanabe Kanichirou

〔Abstract〕

Watanabe Kanichirou (1854-1938) was an influential educator in Shimane prefecture and the head of the society in support of Wakatsuki Reijirou (Kokudoukai). Here we transcribe his diary written on 1917-1919. Through this diary we can perceive how Watanabe, after his retiring from teaching,made relationship with important persons of educational society and statesmen and beaurocrats. Also Watanabe made many contributions to the world of letters and devoted himself to Noh music in Sanin district.

Keywords：Watanabe Kanichirou, Taisho, Kanshi, Noh music, Sanin, Education, Politics